

「こんにちは」から始まる国際交流

KIRIA かにえ国際交流友の会
Kanie International Friendship Association

会報 No.5 (April 1998)



97年11月9日
5周年記念事業
=中国琵琶と
アルパの夕べ=

感動こそが活動のエネルギー源

会長 棚橋 美知子



「はじめて聴いたけれど本当にすばらしかった。次はいつやるの？」こんな感動の声を耳にしながら、念願の5周年事業のコンサートを終えることができ、これ以上の喜びはありません。会員の力を結集しての文字通りの「手作りコンサート」でした。外国の音楽がどこまで受け入れられるか開演まで不安でしたが、大勢の方々、特に、素晴らしい生演奏にすっかり魅了された様子の高齢者の姿に、地域での今後の役割が一つ見えてきたように思います。

感動こそが活動のエネルギー源。今年も感動を呼ぶ様々な活動を展開していく所存です。どうぞご支援ご指導の程よろしく願います。

さらなる発展を期待して

蟹江町長 佐藤 篤 松



かにえ国際交流友の会の皆さまには、様々な国際交流事業を推進していただき、心より感謝と敬意を表します。

昨年の5周年事業が大変好評であったこと、とても嬉しく思います。外国人が住みやすい社会は日本人にとっても

暮らしやすい社会です。そう言った意味でも日本語教室は外国人ばかりでなく、日本人にとっても有意義なものであると確信しております。

今年はドイツ、ハンブルグへのホームステイを新たに始められるとのこと、これを機にさらなる交流の拡大を、そしてかにえ国際交流友の会のますますの発展と会員の皆さまのご多幸を祈念申し上げ、ごあいさついたします。



ハンブルグの紋章



ハンブルグの正式名称
Freie und Hansestadt Hamburg
(The Free and Hanseatic City
of Hamburg)

ハンブルグ「ホームステイ」交流旅行計画

私たちの会では過去2年間ハンブルグからのグループを受け入れましたが、今年はこちらから出かけてハンブルグ市民の家にホームステイします。

7月始めに出発し10日間ほど滞在する予定です。短い期間ですが、ドイツの素晴らしい自然そしてドイツの人々の日常生活に触れると共に、非常に先進的と言われる家庭あるいは地域の廃棄物への対処方法などについても機会があれば知りたいと考えています。

今回の訪問が、互いの地における経常的な相互交流のきっかけとなることを期待しています。



ハンブルグ

北緯53-54度、東経10度。

エルベ川に面した港（河口から約100 km）を持ち、かつてのハンザ自由都市同盟の1都市。

日本では大阪と姉妹都市を結び、人口約170万人である（ドイツで2番目に大きい都市）。

7月（もっとも暑い月）の平均気温は16 ± 6℃で、気候は内陸の諸地域より温暖である。

ハンブルグから各都市への所要時間
(鉄道)

- リューベック(Lübeck): 0:40
- キール(Kiel): 1:15
- ブレーメン(Bremen): 1:00
- ハノーファー(Hannover): 1:15
- ベルリン(Berlin): 3:00
- ミュンヘン(München): 8:30

(藤田美保)

ひと足お先に -ハンブルグへの旅- (1997.8.31~9.10)

富田 健 嗣

8月31日 無事ハンブルグ (Hamburg) に到着

Helmut 一家の暖かい笑顔が空港で待っていてくれた。

9月1日 ハンブルグ観光

ボートで湾を1周したり、教会を見たり、湖の下にある長いトンネルをくぐったり、デパートを紹介してもらったりした。街にトイレが少ないのに驚く。帰宅してから自転車で家の周りを探索したのも楽しかった。街に電柱がなく、緑をととても大切にしていること、そして昔のものをもう一度使い直している点などに、環境先進国という印象を受ける。

9月2日 ツェレ (Celle) という街へ

おとぎのような街で、見ているだけでロマンチックな雰囲気を味わう事が出来た。日本語のパンフレットもおいてあるくらいなので、知名度の高い街のようだ。特にこの街の家には、それぞれ何年に建設され、何年に補修されたということが、書いてある。それにしてもここはキャンドルが似合う国だ。

9月3日~5日 ノルトストランド (Nordstrand) にあるカントリーハウスへ

(Husum-Friedrichstadt-Schleswig-Vollerwiek などを観光)

デンマーク国境に近い北部ドイツを見た。どこか牧歌的で煉瓦の家が温かい印象を与えてくれる。早くリタイアして、カントリーハウスで余生を楽しむという考え方。自分達で独自のカントリーハウスを作っていくという姿勢に共感する。彼らの庭園は、本当に美しく、そしてどこか素朴だった。5日の夜は、クラブナイトという Hamburg イベントへ。24時間フリーパスさえ持っていれば、街中のどこのクラブにも入れるという特別な夜だった。みんなで民謡や牧歌を歌え、騒げ、踊れる国民性に憧れを感じる。

9月6日 ハンブルグへ買物、夜は映画鑑賞

9月7日 魚市場 (Fisch markt) へ買物、聖ミハエル教会 (St. Michaelis) 見物

9月8日 リューベック (Lübeck) -ヴィスマール (Wismar) -シュベリン (Schwerin)

リューベックのまちで City Hall を見物した。他にもマリア教会、トーマスマンの実家など、とても魅力ある街に感じた。それから、旧東ドイツにも初めて行って見た。とにかく西側との格差が激しく、道などまだ整備されていない箇所も多い。途中のモールで食べたアイスバンというドイツの豚料理はとても美味しかった。ビールとレモネードのカクテルもいけた。

9月9日 エルベ川 (River Elbe)

Hamburg に流れ込む River Elbe にそって西にドライブし、途中 Wishhafen で川を渡った。とにかくこの地域は、ハンブルグの食料庫と言われているらしくとても果樹園が多かった。

9月10日 パリへ

今回は個人的に訪ねたということもあり、かなりフレキシブルに、そして内容の濃い旅をヘルムートさん一家にさせて頂く事ができました。自分の中で特に印象に残っているものは、家に対する気持ちと自然との共生だと思います。いかに自分流に長持ちさせ、環境を作っていくのか。今あるものを壊すのではなく、活かしそして新しい環境を作ろうという姿勢に、学ぶ事は多いと思います。



朝食に魚？（初めて日本食を体験して）

エルゲ・オーハイム（ドイツ）

東京着後、ホテルの朝食で、日本の風変わりな食習慣を知りました。朝食に魚が出たのです。私たちハンブルクからの訪問団のほとんどは、以後ヨーロッパ風の食事を注文しましたが、私は蟹江で榎田家にホームステイしてからも、日本食を好んで食べました。

日本の家にホームステイして、生活習慣の違いに直面して、大いにまごつきました。どこで靴を脱ぐのか、トイレ（日本式トイレやシャワートイレ）の使い方、味噌汁を箸で食べる方法などなど…。しかし私のホストファミリーは、何度も何度も根気よく説明してくれましたので、そのうち慣れて畳の上のこたつにも気持ちよく座れるようになりました。着物（訪問着）を着せてもらいましたが、それを着てエレガントに歩くのは至難のわざだということも知りました。けれど後でもらった浴衣はシャワーを浴びた後で着ると、とても快適で大好きです。

もうひとつの大きな体験は、京都の寺に泊まり座禅を組んだということです。朝の5時から朝食抜きで何時間も座禅を組み、しかも〈無心になる〉ということは、今までの私の日常には全くなかったことで、この間に2キロやせました。蟹江に帰って食べた、ホストファミリーの作ってくれたお味噌汁が、なんとおいしかったことか！

昨年7月の終わりに榎田家の君代と奈緒子が、私の家にきました。私たちは、住人がたった200人の集落に住んでいますので、近所の人たちはこの遠来の客にとっても興味を持って、いまだに「どこから、何しにここにきたの？」とた

ずねたりします。リュウベックやバルト海や旧東ドイツへドライブし、古城をたずねたり、湖をクルージングしたり、

春と一緒に蟹江に行った友人のジークリッド・グロスの別荘に、お茶に招かれて出かけていったりしました。また、日本とドイツの文化や政治、衣食住を比較したりし、終えることのないおしゃべりを楽しみました。

私たちは、君代や奈緒子が、私たちが蟹江で受けた喜びと同じように、このホームステイを喜んでくれるといいと思います。ことしはKIFAの人たちがこちらに来られるとのことですので、お会いできる日を今から楽しみにしております。



ジークリッドさんの別荘に、お茶におよばれて

りっぱな枝豆が育ちますように

富田 恵美

我が家にステイしたのは、お腹の丸いコメディアンのようなヘルムートさんと、物静かだが突っ込みの激しいイングリットさんの夫婦でした。

夕食時は、それは賑やかで、その日のディトリップで体験したこと出会った人々など、機関銃のような「口」に身振り手振りをつけて面白おかしく話してくれました。

そんな彼が一度だけ真剣な眼差しで、しんみりと語ってくれたことがあります。それは、大戦末期のこと…彼の母親が、4人の子供をかかえソ連との国境近くの町から、何百マイルも徒歩で逃避行した話です。道中一人の子供を亡くし、安全な場所にたどり着いた時、彼女の髪は真っ白になっていたとのこと。まだ四十だったそうですが、その体験は強烈で絶対に忘れることは出来ないといいます。

「二度と戦争を起こしてはならない」「戦争を避ける一番の方法は、その国の人々と友達になることだ」これが彼の信条で、だからこそ世界を旅し、それぞれの国でホームステイを楽しむのだそうです。

これはKIFAの皆さんにもぜひ聴いてほしいとおもったことです。

もう一つ楽しい話を紹介します。日本料理が大好きでブリの照り焼き、キンピラゴボウなど、もう一度食べにきたいそうです。何と言っても圧巻は天ぷらでもう食卓に座っていただけなくて、台所まで一緒にきて具の種類、衣の作り方や固さ、油の温度まで全部チェックしていきました。何か月か後、今回のツアー参加者を招待し彼の作った天ぷらを食べながら、日本の思い出を語る約束とのこと、またその時ビールのつまみにぜひ欲しいのが枝豆だそうで、枝豆の種もしっかり買い込んでいきました。

最高温度が25℃にしかならないハンブルクですが、果たして枝豆はりっぱに育ってくれるでしょうか。



ヘルムートご夫妻

冬のドイツを訪ねて

小林純子

ドイツから、初めてのお客様をお迎えしたのは、昨年春。あれから8か月後の昨年冬、再び彼女とドイツで再会しました。寒さの厳しい冬のドイツは、決してベストシーズンとは言えません。しかし、ドイツには寒い冬を彩る祝祭“クリスマス”があります。私は、どうしてもこの祝祭を体験してみたかったのです。

ここで、私が体験したドイツのクリスマスを紹介したいと思います。日本では、お正月が大きな国民的行事ですが、ドイツでは、クリスマスがそれにあたります。11月末の日曜日からクリスマスシーズンが始まり、どこもかしこもクリスマス一色です。ショッピング街はもちろん教会、コンサートホール、お城まで、町の至るところにツリーが飾られます。また、この季節になると規模の違いはありますが、どの町でもクリスマスマーケットが開かれます。私たちはドイツでも特に大きなマーケットの開かれる、ニュルンベルグとミュンヘンを訪れました。

ここにはツリーに飾るオーナメントやキャンドル、お菓子類など色とりどりのクリスマス商品が並べられ、見るだけでも楽しくなります。毎年数多くの人が、このマーケットを訪れるそうで、すごい賑わいでした。しかし、このマーケットも24日の午後までにはすべて店を畳んでしまいます。クリスマスは家で過ごすのが基本のようです。私も彼女の自宅でクリスマスを楽しみました。



ニュルンベルグのクリスマス

家の中には、オーナメントで飾り付けをした大きなツリーを飾り、テーブルにはドイツの伝統的なクリスマス料理が並びます。また、ツリー、テーブルにはローソクを点します。ローソクの火の何とも言えない幻想的な雰囲気の中で、クリスマスを楽しみます。何ともロマンチックだと思いませんか。

ドイツの冬を彩るクリスマス。それはドイツの古い伝統を感じさせるものでした。春や秋などベストシーズンはもちろん素晴らしいでしょう。しかし、冬にはクリスマスやカーニバルなど、また一味違ったドイツの姿があります。冬こそ、ドイツ本来の姿を知る絶好の機会なのかもしれません。

行事の足あと

あんなこと こんなこと ありました。

大勢の参加ありがとう。



▲ 4月6日 総会

太鼓を真ん中に、海東流社中と中国青年との交流
(総会後のパーティーにて)

▼ 5月25日 川越火力発電所見学と潮干狩り
初めてのバス旅行 (晴天に恵まれて)



▲ 6月29日 すもう教室

バングラディッシュのシディキさんのまわし姿
(どうしてもパンツは取れませんでした。)



▲ 8月9日・10日 盆踊り大会

太鼓に合わせて盆ダンス (アレツ、足元?)
ドーナツ、ポップコーン、外国ジュース
35,102円の収益金でした。



▲ 9月21日 中国料理教室
本場中国のぎょうざ作りに挑戦(皮作りに悪戦苦闘中)

▼ 10月25日・26日 町民秋祭り
世界のグルメコーナーへブラジル料理を出店
(muito gostoso)
フリーマーケット売り上げ、49,400円でした。



▲ 11月9日 五周年記念コンサート
中国琵琶とアルパの夕べ



▲ 12月7日 クリスマスパーティ
皆んなで shall we dance.



◀ 2月22日 服部美恵子さんの講演会
「国際交流、私の場合」

国際交流とボランティア

S・K

国際交流5周年記念として催されたアルパ（ハーブ）と中国琵琶を聞く会に、参加させていただきました。町内の寺院の堂内で演奏されましたが、参加者の多さにびっくりしました。そして今更ながら、かえり国際交流友の会に対する地域の皆さんの理解と協力の大きさに、感動しました。継続は力なりとよく言われますが、発足から現在まで、この会のために尽力されました棚橋会長を始め、運営に力を注がれた役員の方々に頭の下がる思いです。協会が発足した当時と現在では、国際化の持つ意味が違ってきました。多数の日本人が海外へ出かけられますし、また、外国の人々も日本に来られます。そして年月が経つにつれて種々の問題が起こります。海外の文化を知る良い機会でもありますが、犯罪につながる良くないことも派生します。閉鎖的であった我が国の政治も経済も、国際化の流れに抗し切れず、大きく変わろうとしています。すでに民間ボランティアは、国際交流事業を先取りして活発に活動し、それを大きな流れとして定着させているのを、皆さんの仕事を通して感じることができます。

私たちの社会の流れの中で、一住民の自主活動がだんだん大きくなり、大きなうねりとなることがあります。あの長野オリンピックに招待された地雷禁止条約締結のきっかけを作り、ノーベル賞を受賞されたアメリカの女性や、近くは名古屋市南陽町に住んで居られる、銃所持禁止運動をアメリカ大統領に訴えられた服部さん等、小さな流れが大きなうねりになって私たちの心を打ちます。

かえり国際交流友の会が21世紀に向けて発展されますことを祈り、応援したいと思います。

1 年 を 振 り 返 っ て

富岡 恒子

KIFA 入会のきっかけは、マリベットの親子の手助けから始まった。感謝されて、友人になった。

4月 総会に参加。顔見知りがチラホラ。ドイツ料理もおいしかった。ドイツ語も通じた。

5月 バス旅行。中学校の同窓会幹事会と重なりバス。

6月 若松部屋の力士と交流。さすがに大きい。

7月 教会での韓国学生との再会。

8月 盆踊り大会へは記念写真を取りにいっただけ。踊れずとても残念。

9月 中国料理を習い、中国語も習った。

10月 町民秋祭り。バレーの練習後に行ったのでバザーは売り切れだった。

11月 中国琵琶演奏会、高校幹事会と重なりバス。

12月 クリスマスパーティ生バンドが入り、学生時代トランペットを吹いていたので、やらせてもらった。ダンスに歌に最高に楽しいクリスマスだった。

1月 始めてボランティアに参加し、日本語しゃべろう会の先生になった。昼食やカラオケを共にし「富岡先生歌って!」と言われ、嬉しかった。

2月 服部美恵子さんの講演会。彼女とは教会で知り合い、息子さんと主人が同じ高校の出身であることもあって、より親しみを感じ YOSHI の記事はすべてスクラップしている。

平成10年2月2日で私も50才という人生の節目を迎える。常にプラス思考で、明るく元気で素直に有意義な生涯を送るのが希望だ。

3月にはマニラへ行って、マリベットの母様と再開する予定。サウナでお母さまが倒れなかったらマリベットと知り合うこともなく、この楽しかった1年もなかっただろう。ほんとに感謝。アーメン。年一回海外旅行を実行中だが、世界中を回って国際交流をより深めていきたい。



企業会員（ご協力ありがとうございました。）

(株) ニッシンテクノス	(株) 日光 鋳 工 場	(株) 八 形 工 業
(株) 蟹 江 住 宅 設 備	(株) ア イ エ ス	

今後の活動に生かしたい研修の成果

—平成9年度愛知県国際交流女性海外派遣事業に参加して—

谷中 ひさ子

昨年5月、一枚の募集要項を手にした私の目は、行き先の「オーストラリア」と「ニュージーランド」に止まった。二国とも福祉大国と言われている国で、介護保険導入目前の日本との違いを知りたいと思った。当会の棚橋会長に推薦文をお願いし、応募したところ、行けることになった。愛知県の各地から参加した10人のメンバーで研修先を決め、事前研修を何度も重ねて準備し、やっと10月10日の出発日を迎えることができた。空港でメンバーの顔を見た時、それまでの3か月半を思い感無量であった。

オーストラリアのケアンズ、シドニーと乗り継ぎ、ニュージーランドのクライストチャーチに到着。まず市庁舎へ市長を表敬訪問。19才で市会議員、34才で市長、現在42才で6才と1才の子のお母さんでもある。女性の市長が珍しくない同国でも特異な存在であろう。ガーデンシティと呼ばれ、美しい花や木であふれているこの街に咲いている、大輪のひまわりのような女性であった。明るく豪快に笑う彼女から勇気とエネルギーを与えられた気がする。

市庁舎を後にし、同市のシンボルである大聖堂の裏に位置する“ウイメンズセンター”に行き、同国の女性の現状について話を聞いた。ここは家庭内暴力に反対し、女性の保護、開放を組織としてまとめている施設であった。現代の駆け込み寺といえる。

次に訪れたヒルモートン高校で大きな感動に出会った。それは、スペシャルニーズ(日本の特殊学級)制度があり、生徒一人にスペシャリストが一人つき、個々の状態に応じたプログラムが組まれていることだ。普通学級の生徒と一緒に学習する時間もあり、まさにノーマライゼーションを実現している姿であった。今後、日本でもこのような光景が当たり前のこととして、世の中に受け入れられると信じたい。

翌早朝ウェリントンへ飛び、ニュージーランド国立重要文書保管所を訪ねた。1893年世界で初めての女性参政権を求めて、3万人もの女性が署名をした「嘆願書」を見る事ができた。与えられたものではなく自分たちが勝ち取った276メートルに及ぶ巻き物である。日頃は非公開にもかかわらず見せて下さったご厚意に感謝し、雨の中を空港へ向かった。シドニーを経由し、メルボルンに夜中に到着した頃



は、少し疲れも出てきたが気を入れ直し、高齢者ケア施設での一日研修を受けた。16項目の入所者の権利(質の高いケアを受ける権利、尊厳や人権を持って暮らす権利、他)を掲げている事に、日本人の権利意識の薄さを思い知らされた。このクィーンエリザベスセンターは、オーストラリアの高齢者ケアサービスの主導的立場として知らされている。

CERESS(環境に関する教育と訓練センター)と女性行動同盟本部の訪問を終え、いよいよ今回のメインとも言えるポートフィリップ市、(メルボルン南の海岸線に沿ったリゾート地)の女性フォーラムへの参加である。私達を歓迎するため開催されたものなので緊張したが、スピーチの交換を行なった頃には和やかな空気が流れた。女性市長のハーグさんからも「地方行政は女性の活躍の場」という、男女共同参画社会の現実をめざす日本の現状を後押しするようなスピーチを頂いた。

最後の研修として、シドニーの移民・多文化局を訪れ、1778年植民が開始され白豪主義、多文化主義を経てその後も、難民・移民の受け入れを行ってきたオーストラリアの歴史の一端に触れた。この10日間、研修ばかりでなく、動物園でコアラやカンガルーをみたり、シドニーのオペラハウスで演奏を聞いたり観光もすることができ、頭の体操と気持ちのリフレッシュになった旅行であった。さて、これを今後生かすとなると何をどうすればよいやら……と模索中である。

外国人との交流を進める

—ニュージーランドからのホームステイを受けて—

山田典和

ボランティア精神とは、社会事業に奉仕する心を養うに起因する。日本では最近になって叫ばれるようになったが、まだまだの感がある。「誰かがやる」ではなく、その誰かになるんだという心意気が大事である。かにえ国際交流友の会は、海部・津島地区では唯一のボランティアグループで、その活動は棚橋会長の陣頭指揮のもと、すばらしい躍進をしている。

本会の企画の範ちゅうではないが、私宅にて実施しているホームステイについて紹介する。

ニュージーランド女子校の引率教員2名のホームステイを、一昨年に続いて本年四月にも実施する。あくまでもお客様ではなく、家族の一員として迎える。息子の勤務（高校・英語教諭）の関係で両校の交換学生の引率者である。

外国人ということで、いろいろ問題はあるが、先方も日本文化を学ぶための来日であるから、言葉、食事もありのままで通用する。「グッドモーニング」とあいさつすれば、「おはようございます」で返ってくる。食事は日本食（すきやき、しゃぶしゃぶ、てんぷら、すし、味噌汁等。）は最高と喜んでおられる。滞在中の移動手段は、もっぱらJR（外国人専用バス—四万円程で日本中どこにでも行けて、何度も使える。）である。

ニュージーランドでは、日本へ行ったら、

- 1 新幹線に乗ること。
- 2 富士山を見ること。
- 3 京都見物すること。だそうです。

とにかくホームステイを受けることは、大変なことではあるが、環境さえ整えば実施できる。もっと大事なことは、家族の協力と理解が肝要であると思う。



わたしと「日本語しゃべろう会」

山田エミ（フィリピン出身）

わたしはフィリピンのセブシゅっしんです。けっこんしてもう十年です。いまは中川区戸田にすんでいます。九才の男の子と四才の女の子がいます。上の子が小がっこうにかよいはじめて、がっこうのおしらせなどこまかいことがわからなくてたいへんでしたが、おばあちゃんやきんじょの人たちにたすけてもらいました。そのとき日本語をしんけんへんきょうしようとおもいました。そして、じぶんでべんきょうして日本語けんていの4きょうをとりました。

きょねんからまいしゅう月よう日にかにえじどうかんで日本語をべんきょうして、こんどは3きょうにチャレンジし、ごうかくすることができました。かにえじどうかんでいろいろな国の人としりあいになりました。こどもがせんせいやお友だちとあそんでいるあいだ、わたしはあんしんしてべんきょうすることができます。

日本語のべんきょうだけではなく、日本のせいかつでわからないことをおしえてもらったり、フィリピンのことをはなしたりして、たのしくじかんがすぎます。ほんとうにたすかります。

わたしはこの「日本語しゃべろう会」がすきです。日本語をべんきょうしたいとおもっているあなたも「日本語しゃべろう会」でわたしたちといっしょに、たのしくべんきょうしてみませんか。



アメリカ人の結婚式

大島 明博

昨年5月20日ごろ、シアトルに住むマイクとシャーナから結婚式の案内状が届いた。式は7月5日、夕方からシアトルの裁判所で行なうという。一日おいてすぐ出席の返事を出した。一人で行くのは不安であったが、2週間後に届いた手紙には「アメリカに来る日時を知らせてくれれば、空港まで迎えに行くから安心してきてほしい」と書かれていたので、少し気が楽になった。

2人は昨年3月まで津島市内の中学校で英語を教えていた。シアトルには定刻どおり午前10時に着いたが、入国検査(特に手荷物)が厳しく、到着ロビーへ出てこられたのは午後1時に近くになっていた。遅れたことを彼らに電話しようにも小銭がなくて仕方なくバス乗り場へ歩きかけたら、マイクが見つけてくれた。

リコンファーム(帰国便搭乗再確認)を済ませてから、ホテルまで送ってもらう。彼に待ちぼうけを食らわせたことで、しずんでる私に、「シアトルは雨の多い街だ。昨日から降り続いていた雨も今朝やんだ。だからオリンピック山を見られるグイ(私のニックネーム)はとても運がいい」と慰めてくれる。相変わらず気のいいマイクのお陰で落ち着いた。

当日午後6時15分ごろ、シャーナの叔父さん夫婦が車で迎えにきてくれた。10分で会場に着く。受け付けで各自のプレゼントを渡し、署名を済ませ扇状に並べられた椅子に順に座った。プログラムには招待客の名前が、申し込み順に印刷されている。120人ほどで、彼らの友人以外はすべて夫婦、カップルでの参加だった。

ブライドメイドに付き添われた新婦と新郎が、神父の前に歩み寄る。穏やかな神父の言葉に始まって、二人からそれぞれの両親へのあいさつ、友人たちの祝辞、二人がキスしあうころには、女性の友人たちの目に涙が光る。その後、別室で招待客には順に二人とそれぞれの両親に祝福の言葉を述べる。終わっ



た者から、備え付けのバーで飲み物を注文し立ったまま1時間ほど談笑する。8時ごろから各自テーブルに着きバイキング方式の食事となる。

大皿には調理されたものはほとんどない。日本で見られるすべての野菜が生のままカットされて積まれていた。二人が菜食主義者だと聞いていたが、ここまで徹底してるとは思わなかった。そのことをシャーナに話すと「今日の客たちは、初めて食べる人がほとんどでしょう。」と、いたずらっぽくウィンクして見せた。日本そばなどの麺類、パスタ料理なども少しあった。しかしながら誰も普通の顔で、それらを摘んで口に入れていた。

バンドが替わって9時ごろ、いよいよケーキカット、ケーキの前で友人たちが元気に祝辞を読む。配られたチーズケーキはとても美味しかった。10時からディスコタイム、11時からソシアルダンスタイム、そろそろ飽きてきて11時半ごろホテルに戻った。会場には私のほかに日本から若いカップルが来ていた。

日本語は使うまいと決めて行った1週間の旅、小さなトラブルの連続であったが楽しい思い出を作ることができた。

賛助会員(ご協力ありがとうございました。)

丸 信 製 粉 (株)	も へ の 寿 司	(株) 八 幡 製 鋏 所	(株) 若 業
松 岡 豊 泉 閣	(株) フ ミ ン 加 工	蟹 江 広 寿 司	(株) 東 海 興 業
(有) み づ ほ 園 芸	(株) 松 は ま	(有) た ち ば な や	(株) 片 桐 銘 木 工 業
(有) 共 同 建 設	観 音 寺	高 坂 英 次	月 星 光 博
山 本 美 代 子	佛 光 寺	山 田 栄 子	

◆ガンバッテマス、仲間になりませんか



日本語しゃべろう会 (日曜日クラス)



日本語しゃべろう会 (月曜日クラス)

●日本語しゃべろう会

*日曜日クラス

- ・月2回日曜日
- ・10:00~11:30
- ・蟹江中央公民館

*月曜日クラス

- ・毎週月曜日
- ・10:30~12:00
- ・蟹江町児童館



ポルトガル語教室

●ポルトガル語教室

- ・月2回日曜日
- ・13:00~14:30
- ・蟹江中央公民館

◆◆ あとがき ◆◆

原稿をお寄せいただきました皆様、ありがとうございます。今回も紙面の都合上すべてを載せられなかったことをお詫びいたします。

「やっと5年」「もう5年」それぞれの思いがあった年も過ぎていきました。5年前と今では蟹江町に住む外国人の方、また会員の皆様の生活にも大きな変化があったと思われます。かにえ国際交流友の会も、ボランティアだからこその国際交流活動を目指し6年目をスタートします。今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(た)

INFOMATIONN ABOUT GENERAL MEETING

We will be having a general meeting.

We would like everyone to attend.

Date : April 12 (Sunday)

Time : 1:00 pm.

Where : Kanie Community Center (Annex)

AVISO da ASSOCIACAO DE INTERCAMBIO MUNDIAL

ciacao e convidamos todos os estrangeiros a participarem.

Date : 12 de abril (Domingo)

Horario : 13hs

Local : Centor de Atividades de Kanie (Filial)

●現在の会員数

・個人 119人 ・企業 5社 ・賛助 19人

98年度 総会のご案内

時:1998年4月12日(日)

午後1時00分

所:蟹江中央公民館分館

かにえ国際交流友の会

事務局 蟹江町役場 企画課

〒497-0052 愛知県海部郡蟹江町大字西之森字長三郎2

TEL(05679)5-1111 FAX(05679)5-9188